



再ヒ郵便爲替貯金資金ノ運用ニ就テ(1)

下村, 宏

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 3(1):27-43

(Issue Date)

1907-07

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051157>



再ヒ郵便爲替貯金資金ノ運用ニ就テ (其一)

郵便爲替貯金監理所長

法學士 下村 宏

曩ニ木誌第一卷第三號ニ於テ本題ニ就キ論述セル所アリタリ茲ニ多少ノ重複ヲ顧ミズ再ヒ本題ニ就キ一言シ斯業ニ對スル參考ノ一端ニ資スル所アラントス
明治四十年五月中ノ現計ニ徴スレハ

郵便貯金現在額

七千七百八拾七萬餘圓

郵便振替貯金現在額

四百七拾七萬餘圓

小計

八千貳百六拾五萬餘圓

ニ上リ之ニ

內國郵便爲替平均一日振出金額

五拾貳萬餘圓

郵便取立金平均一日受入金額

四萬餘圓

小計

五拾七萬餘圓

ヲ加フルトキハ毎日平均八千參百餘萬圓ノ金額ハ絶エス政府ノ機關内ニ在存スルモノニシテ然カモ郵便貯金ニハ預入アルト同時ニ拂戻アリ郵便爲替及ヒ郵便

取立金ニハ振出及ヒ受入アルト同時ニ之カ拂渡アリ全國六千有餘ノ郵便局ニ於テ常ニ出納預拂ニ間隙ナク殊ニ爲替及ヒ取立金ニアリテハ單純ナル送金方法タルニ止マリ甲地ニ於テ振出サレタル同一金額ハ乙地ニ於テ支拂ハル、モノニ外ナラサルカ故ニ結局大藏省預金部ニ於テ運轉利殖セラルヘキモノハ郵便貯金現在額ニシテ然カモ六千有餘ノ郵便局ハ寒村僻地深山孤島ニ至ル迄散布セラレ此等各局ニ通セル郵便貯金預拂ノ狀況ハ本年五月中ノ現計ニ見ルニ

預入	度	
	金	數
	額	數
	一〇、一六一、九九九圓	一、九九九、三二〇
拂戻	度	
	金	數
	額	數
	七、一六、九二五	九、九四七、一八八圓

ノ計數ヲ示セルヲ以テ一方ニハ之カ資金ノ集中ト一方ニハ之カ拂戻資金トシテノ留置關係トニヨリ結局現實ニ預金ノ金庫ニ寄托セラル、高ハ郵便貯金現在高ヨリ低下セラルヘキハ誠ニ看易キ處ナリトス然カモ三十一年度以降三十七年度ニ至ル統計ニ徴スルニ正ニ次ノ如キ數字ヲ示セリ

年 次

郵便貯金現在高

預金寄托高

貯金現在高ニ對スル
預金寄托高ノ割合

増加シ三十五年度以降ハ却テ現在高ヲ超過スルニ至レルヲ見ルヘク殊ニ郵便局ノ留置金額ニ至リテハ一方ニハ郵便局處數益増設セラレ一方ニハ爲替貯金事務ノ益膨脹シ來レルニ關ラス其絶對數字カ三十三年度以降却テ急激ナル減少ヲ來セルヲ見ルヘシ

由來郵便局處ニ於ケル資金ニハ二個ノ反對セル要求アリ第一ハ郵便局所ニ於テ受拂差引過超金アルトキハ可成舉ケテ之ヲ運轉利殖スヘク預金ニ寄托セントスル要求ニシテ第二ハ公衆カ爲替ノ拂渡貯金ノ拂戻等ノ請求アリタル場合ニ資金缺乏ノ故ヲ以テ之カ拂出ヲ停延シ爲メニ斯業ノ信用ヲ害スルカ如キコトナカラシカ爲メ資金ヲ郵便局ニ充實セントスル要求ナリ第一ノ要求ヲ極端ニ履行スルトキハ率テ斯業本來ノ機能ヲ全ウスルコト能ハサルニ至リ又第二ノ要求ニ重キヲ置クニ過クルトキハ徒ラニ巨額ノ金額ヲ死積スルノ弊ヲ生スヘシ

政府カ明治八年ノ當初郵便爲替貯金事業ヲ開始スルニ當リテハ取扱局所數至ツテ少數ナリシモ受入金ヲ以テ拂出金ニ充用スルニ至ラス當初前後三回据置運轉資金ヲ増加シテ遂ニ參拾壹萬餘圓ニ上リタリシモ其後忽チ貯金ノ劇増ト郵便

爲替ノ各局ヲ通シテ増進セルカ爲メ流通資金潤澤トナリ又据置運轉資本ノ必要ヲ見サルニ至リタリ當時金利猶高カリシモ斯業未タ幼稚ノ時期ニ屬シ財政ノ機能猶發達ヲ見ルニ至ラサリシヲ以テ超過金ノ回收ニ就テハ注意ヲ拂ハル、コトナク資金及ヒ超過金ノ回收ハ舉テ内國通運會社ヲシテ之ヲ請負ハシメ同會社ハ月二回各局所ニ就テ之カ定期ノ集金ヲナシタリ從フテ多大ノ現金ハ同會社及ヒ郵便局處ニ停滯セラレ一方ニハ政府ハ巨額ノ資金ヲ死積セシメタルノミナラス一方ニハ此等資金ノ停滯ハ請負制度ノ下ニアル三等郵便局長ヲシテ公金ヲ私用ニ濫用セシムルノ途ヲ開キタルノ嘆少ナカラサルノ結果ヲ見タリ

如上ノ缺點ヲ併セ避クルカ爲メ通運會社ノ請負ハ三十四年ヲ以テ全ク解除セラレ定期納付ノ制ヲ廢止シ専ラ郵便機關ヲ利用シテ日々現金遞送ノ方法ヲ開始シタリ是レ上掲統計ニ示スカ如キ數字ノ變化ヲ見ルニ至リシ原因ニシテ此改正ヲ實行スル爲メ相俟テ最モ有效ナリシ方法ハ

第一、金庫及ヒ銀行ヨリノ逆爲替

第二、通信管署ノ歲入歲出金ト郵便爲替貯金トノ間ニ於ケル繰替受拂

ノ二制度ナリトス

金庫ノ逆爲替ハ三十四年十月遞信省ト大藏省ノ協定ニ基ツクモノニシテ其後遞信省ハ清韓其他ニ於テ第一銀行正金銀行臺灣銀行三井銀行等ト又同種ノ協定ヲナシ一面超過金即日納付ノ制ヲ厲行スルト共ニ資金缺乏ニ對スル應急ノ途ヲ講シタリ同一ノ通信官署カ窓口ニ於テ出納スル歲入歲出金及ヒ歲入歲出外現金ハ其出納ハ固ヨリ各其別ヲ明ニスヘキモ其間ニ便宜繰替受拂ノ途ヲ講スルノ利便ナルヘキハ郵便電信事業ノ側ヨリ見ルモ又爲替貯金ノ資金缺乏ノ側ヨリ見ルモ言フ俟タサル處ニシテ本法ハ三十六年四月ヲ以テ之カ改正ヲ見ルニ至レリ此二法ハ資金充實ノ臨機ノ方便トシテ能ク資金回收ノ厲行ヲ遂行スルヲ得セシメシモノニシテ猶望蜀ノ希望ヲ以テスレハ鐵道國有ノ步武進行スルニ伴ヒ沿道各停車場ニ於テ主トシテ受入ヲ以テ占メラル、ヘキ鐵道收入支出金ヲ又等シク通信事業ノ收支金及ヒ爲替貯金資金トノ間ニ繰替受拂ノ途ヲ疏通スルコト白耳義國ニ於ケルカ如クセハ現金遞送ノ煩ヲ免カレ有無相通スル點ニ於テ猶一層多大ノ便益ヲ得ヘキハ多辯ヲ俟タサル處ナリトス

現時ニ於ケル超過金及資金ノ受授便ニハ金庫便、銀行便、現金遞送便及ヒ現金直納直渡便ノ四種アリ明治三十八年度末ニ於ケル全國通信官署ニ於ケル受授便種別數ヲ舉レハ次ノ如シ

便種	受授局便數	
	金庫便	被受授局便數
金庫便	九二	〇
銀行便	四〇	一三七
現金遞送便	一二四九	五五〇七
現金直納直渡便	七五〇	五四〇

金庫便ハ全國十八ノ一等局及ヒ金庫處在地ノ二等局ニ於テ郵便爲替貯金管理處間ト本支金庫間ノ振替計算ニヨリ資金ヲ受授スルモノニシテ金庫ノ數限アルカ故ニ利便大ナルモ之ヲ普及スルニヨシナシトス

銀行便ハ通信官署雙互間ニ銀行爲替ニヨリ受授スル方法ニシテ若シ政府カ郵便事業ニ附帶シテ經營スルモノニ非ラサル以上ハ現金遞送ニ比シ遙カニ利便大ナルヘキモ政府ハ同一官署ノ下ニ於テ郵便事務殊ニ價格表記郵便事務ヲ取扱フカ故ニ却テ銀行爲替ノ取組現金ノ受取等ヲナスヲ不便トナシ取扱時間其他銀行

ヘノ往復等手續煩雜ナルノミナラス時ト處ニヨリ爲替取組ノ料金支拂ヲ要スルカ故ニ無手数料取扱ノ銀行ニ限り猶多少之カ便種ノ實行ヲ見ル處ナキニアラサルモ他ハ順次之ヲ廢止シ今ハ舉ケテ自己ノ機關ニヨリテ現金ヲ遞送又ハ直納直渡スルニ至レリ如此ハ一般金融事業ノ方面ヨリ着眼スルトキハ一見異様ノ觀ナキ能ハサルヘキモ斯業ノ郵便ニ附帶シテ合同經營セラル、特色トシテ却テ利便トナス處タリ

有無相通シテ地方的相殺ヲナスノ必要ナルハ現金遞送及ヒ之カ逆送ノ頗ル愚ナルト相對照セラルヘキモノナリ從ツテ金融上ノ關係ト交通上ノ關係トヲ考量シ地方的相殺ノ手段ヲ執リ如此ニシテ順次預金ニ寄托スルニ至ルヘキハ尤モ看易キ道理ナリトス此ノ地方的相殺ヲナス中心局ハ之ヲ資金受授局ト稱セラル乃チ其圈内ニ於ケル各局ノ過超金ヲ受入レ不足金ヲ交付スル中央局ナリ資金受授局ハ多額ノ受拂取扱ヲナシ交通ノ利便ヲ有シ金庫便銀行便ノ利便ヲ供フルコトヲ條件トシ距離ノ遠近ヨリモ其局ニ對シ郵便遞送線路ヲ有スル局ハ之ニ連結セラレ猶附近各局ノ一ケ年ノ受拂狀況ニ鑑ミ可成拂渡過多ノ局、受入過多ノ局ヲ同

一 圈内ニ包含セシメ以テ地方的相殺ノ實ヲ舉ケシムルコトヲ必要トナセリ從フテ被受授局ノ受拂ノ狀況ノ變遷其他交通ノ發達等ニ伴フ郵便線路ノ開廢變更ニ伴ヒ常ニ周到ナル注意ヲ拂フコトヲ要シ受授局及ヒ被受授局ノ連結及ヒ之カ變更ハ現時一等局ニ於ケル重要ナル規畫事務ニ屬セリ

資金ハ一面ニ回收ノ要アルト共ニ一面ニ仕拂ニ停延ヲ來サ、ルコトヲ要ス從フテ受入金ト仕拂金ノ間ニ差引受入過剩アルトキハ其過超金ノ幾分ヲ納付スヘキヤ乃チ留置資金ノ標準ハ如何ニスヘキヤハ重要ナル問題ニ屬セリ第一ノ原則ハ未拂高迄ハ之ヲ留置スルコトヲ得ルコトナリ乃チ郵便爲替ノ振出通知書郵便貯金ノ拂戻通知書等ノ類ハ之カ通知ヲ受クルト共ニ早晚之カ仕拂ヲ要スヘキコトヲ豫期スヘキモノニシテ固ヨリ其間ニ電報爲替ノ如ク直チニ拂渡請求セラルヘキモノアリ又爲替送金ノ性質上商業上ノ取引等拂渡請求ノ急速ナルヘキモノアレハ又社交用ノ送金ニシテ急速ヲ要セサルモノアリ時ト處トニヨリ未拂高以上ノ留置資金ヲ豫備スヘキ場合アレハ又未拂高ノ半額以下ニシテ猶餘剩ヲ生スヘキ場合アリ殊ニ時期ニヨリ商業取引ノ關係上受入ノ多キ場合アリ又拂渡ノ多

キ場合アリ或ハ横濱管内ノ如ク相模伊豆駿河沿岸海水浴場溫泉場ヲ通シ社交用トシテ夏期ニ受拂多ク殊ニ拂渡過超ヲ來タス如キアリ如此ハ猶比較的資金運轉上大ナル困難ヲ來タサルモ同一日中ニ於ケル受拂カ午前午後何レカ過超ヲ來タスヘキヤハ恰カモ國庫カ年度内金庫上ノ不足ヲ生スル爲メ結局收入ハ支出ヲ償ヒ得ヘキモ一時大藏省證券ヲ發行スル必要アルカ如ク午前ニ拂渡多ク午後ニ受入多キ處ハ又留置資金ノ差出上之カ標準ニ重大ナル關係ヲ來タスヘキモノニシテ多數ノ留置ヲ要スルコトアリ之ヲ各局ヲ通スルトキハ平均未拂高總額中翌日ニ至リ現實ニ拂渡サルハ六割内外ヲ例トスルモ上述ノ諸種ノ理由ニヨリ各局間ニ著シキ相違アルノミナラス時ト處ニヨリ資金受授局ヨリ常ニ資金ノ補充ヲ要スヘキ處アルヘキハ言ヲ俟タサル處ナリ

資金ノ不足ヲ生セル場合ハ金庫銀行等ト逆爲替ノ方法ニヨリ直チニ資金ノ補充ヲ受ケ得ヘキ處ハ暫ク之ヲ例外トシ急速ノ補充ヲ受クルヲ得サル處ハ結局資金缺乏ノ故ヲ以テ拂渡ノ停延ヲナスノ外ナキモ不時ニ巨額ノ請求アリタル場合ハ事實問題トシテ拂渡不能ナルベキモ或ル程度迄ハ三等局長ハ地方ノ資産家ナ

ルヲ以テ局長ハ自己ノ私金ヲ以テ一時之ニ立替フルコト、ナレリ立替金ハ固ヨリ之ニ日歩ヲ付スルモノナルカ故ニ留置高受入高拂渡高未拂高及ヒ立替高ハ常ニ監督局及ヒ本省ニ於テ詳細ナル監督注意ヲ要スヘキモノニシテ一面ニハ死積ノ金ヲ可成少クスルト同時ニ一面ニハ立替金ヲモ亦可成少クスルヲ必要トナセリ

以上ハ資金ノ受授ニ關スル大體ノ狀況ナリ而シテ預金寄托高ノ郵便貯金現在高ニ比シ猶超過セル處アルハ前述セル處ノ如ク參拾餘萬圓ノ郵便爲替運轉資金ト最近一日平均五拾餘萬圓ノ郵便爲替振込アルカ爲メナリ

郵便爲替中電報爲替ハ振出郵便局處ニ現金ノ振込アリテヨリ電報ヲ以テ拂渡郵便局處ニ通知シ拂渡局ニ於テハ此通知ニ本ツキ爲替證書ヲ作製シ之ヲ受取人ニ交付スルモノニシテ受取人モ亦之カ拂渡ノ急速ヲ要セルモノナレバ直チニ出局受取ヲナスヘキカ故ニ受取人電信取扱局處ヨリ遠距離ニ住居シ電報到達局處ニテ調製セル電報爲替證書ヲ猶本人所在ノ電信ヲ取扱ハサル郵便局所マテ郵送ヲ要スル場合ハ之カ郵送ノ爲メ多少ノ日子ヲ要スルコトナキヲ保セサルモ原則

トシテハ振出ト拂渡ノ期間甚タ短期ナルモノナリトス然レトモ電報爲替ソノモノハ通常及ヒ小爲替ニ對シテハ取扱口數及ヒ金額ハ著シク少數ニシテ殆ント問題ニ上スノ價值ナク又郵便爲替ノ居宅拂制度ハ拂渡郵便局所ヨリ進ンデ受取人ノ住所ニ就キ現金ノ拂渡ヲナスモノナルカ故ニ振出郵便局所ヨリ拂渡郵便局處ニ至ル郵便期間ヲ除キテハ拂渡局所在地ニ於テハ直チニ受取人ノ居宅ニ交付セラル、モノナルモ第一、居宅拂ノ制度ノ行ハル、場所ハ都市ニ限ラレテ未タ一般郵便局所ニ普及セラレサルト第二、世人未タ居宅拂ノ利便ヲ周知セサルカ爲メ居宅拂ノ取扱甚タ少數ナルカ爲メ居宅拂ハ又一般ノ出局拂渡ニ比スルトキハ殆ント問題ニ容ル、ノ價值ナキモノナリトス

少數ノ例外乃チ電報爲替及ヒ爲替居宅拂ノ二者ヲ除ケハ結局最近一日平均五拾餘萬圓ノ振出ハ

甲、振出郵便局所在地ヨリ拂渡郵便局所在地ニ至ル間ノ郵送期間

乙、受取人爲替證書ヲ受領シテヨリ出局シテ現金ノ拂渡ヲ受クル迄ノ期間

内ハ順次常ニ郵便局所ノ手裡ニ存セラルヘキモノナリ甲ノ場合ニ於ケル郵便爲

替ノ一回平均郵送時間乙ノ場合ニ於ケル受取人カ爲替證書受取後其儘手許ニ保存シ置ク平均停滯期間ハ共ニ數字ヲ以テ之ニ算出スルニヨシナキモ一日平均振込及ヒ拂渡金額各五拾餘萬圓ノ金額ハ資金ノ運轉上ニ多大ノ貢獻ヲナセルモノアルハ又言フ俟タサル所ナリ

資金ノ運用上猶一層現金取扱上ノ煩累危險及ヒ死積ノ弊ヲ除去シ斯業ノ爲メ又一般經濟界ノ爲メ多大ノ效果ヲ與ヘシハ

第一、郵便爲替ノ線引讓渡

第二、郵便振替貯金

ノ二制度ナリトス

第一、郵便爲替ハ法規ノ上ヨリ之カ讓渡ヲ禁セラレ委任ノ形式ヲ以テ讓渡ノ實質ヲナス例ナキニ非ラサルモ其數固ヨリ甚タ少ナク又其委任ニヨル受取ハ單ニ前段乙ノ場合乃チ證書到達後出局現金ノ受取ニ至ル停滯期間ヲ多少延長スルニ止マリ其委任ハ等シク同地方ニ發生スルヲ例トナスカ故ニ結局殆ント消長スル處ナキモ明治三十四年四月逓信省々令ニヨリ認めラレタル郵便爲替證書ノ線

引讓渡ノ制ハ在來ノ郵便爲替ニ比較スルニ

甲、郵便爲替ハ一回毎ニ現金ノ振出ト拂渡トラ要スルモノナルニ、銀行ノ線引

讓渡ニヨリ其間別ニ數回ノ取引ヲ包含スルヲ得ルコト

乙、手形交換所ノ取扱ニヨリ數口ノ郵便爲替證書ハ一口トナリテ之カ拂渡ヲ結了シウルコト

丙、手形交換所ノ取扱ニヨリ數口ノ郵便爲替ハ交換所々在地ニ集中シテ拂渡サル、コト

ノ三ノ特色ヲ帶フルニ至レリ今東京手形交換所ニ於ケル明治三十四年六月以降ノ郵便爲替ノ累年交換高ヲ示セハ次ノ如シ

年 次	交換枚數	交換金額
三十四年	一一二、三一三枚	六五六、七七円
三十五年	三〇四、三五七	一、六五二、一六〇
三十六年	三七八、五〇四	二、〇二二、一四一
三十七年	四四九、一七九	二、九〇二、二四〇
三十八年	四六〇、九五〇	四、八四九、〇九四

三十九年

四六二、八〇八

六、九三五、八五五

猶本年五月ニ於ケル東京外各地ノ手形交換所ニ於ケル郵便爲替交換ノ統計ヲ
示セハ次ノ如シ

交換處名	交換枚數	交換金額
東京	三一、二一四枚	一、三五三、四七二円
大阪	一七、三七一	三三六、八三六
横濱	九九三	六七、三〇四
京都	二、二七二	四八、一九九
神戸	一、一四三	三二、二二九
名古屋	二、〇四三	三一、七八二
合計	五五、〇三六	一、八六九、八二二

其一口金額ノ平均ニ至リテハ郵便爲替本來ノ性質上固ヨリ多カラサルモ其交換口數ニ至リテハ東京ノ如キ他ノ銀行ニ比シテ遙カニ多ク猶其増加ノ歩合ノ大ナルト一面郵便爲替全體ニ對シテハ其取扱高猶一割弱ナルヲ見レハ郵便爲替ノ増進ニ伴ヒ絶對ニ相對ニ之カ發達ヲ見ルヘク郵便爲替ノ上ヨリ又一般金融界ノ爲メ資金運轉上多大ノ效果ヲ奏スルモノタルヲ認ムルコトヲ得ヘシ

第二、郵便振替貯金ハ古クヨリ澳太利ニ於テ行ハレタル郵便小切手制ニシテ昨年ヨリ我邦ト瑞西トニ於テ佛白以獨各國政府及ヒ議會ガ調査進行中ニ先チテ實施セル新制度ナリ今最近五月中ニ於ケル郵便振替貯金ノ統計ヲ示セハ

取扱種別

度 數

金 額

拂 込

一一六、七三六

四、七七七、四四三

振 替

六、四〇一

一、八四一、〇六五

拂 出

二〇、四六三

四、五二八、三九一

ニシテ月末現在口座所有者八千九百五十四人同金額百六拾四萬九千貳百七拾九圓ナリ

郵便振替貯金ノ拂込ハ正ニ振替貯金ノ口座所有者ニ對スル郵便爲替ノ振出ナリ郵便振替貯金ノ拂出ハ正ニ振替貯金ノ口座所有者ヨリ其以外ニ振出ス郵便爲替ノ振出ナリ其異ナル點ハ

甲、郵便爲替ハ高額爲替ノ例外ヲ除ケハ一枚五拾圓ヲ制限トスルニ反シ振替貯金ノ拂込ニハ一枚金額ニ制限ナク拂出ハ一枚千圓ヲ制限トス

乙、郵便爲替ハ甲地ノ振出ト乙地ノ拂渡ト共ニ現金ノ出納ヲナスニ反シ郵便

振替貯金ノ振込ハ甲地ノ現金ノ振出ノミニシテ現金ノ拂渡ナク又郵便振替貯金ノ拂出ハ現金ノ振込ナクシテ只乙地ノ拂渡アルノミナリ

乃チ同一行爲ニ於テ振込又ハ拂渡ノミヲ以テ足レリトナスモノナリ

口座加入者相互間ノ振替計算ニ至リテハ單ニ口座所有者ノ臺帳ニ於ケル差引計算ヲナスニ止マリ全ク現金ノ出納アルナシ乃チ郵便爲替ノ現金取扱ニ比シ振替貯金ノ拂込又ハ拂出ハ各其半丈ケ現金ノ取扱ヲナスヲ以テ足リ振替ニ至リテハ全ク之カ取扱ヲナサハルモノナリ如此ハ爲替貯金資金ノ運轉上又郵便局所及ヒ公衆ノ現金取扱ニ伴フ煩累危險誤算等ノ不便ヲ根底ヨリ除却スルモノナリ從フテ振替貯金取扱局所ノ擴張ト口座處有者ノ増進ニ伴ヒ本制度ノ爲替貯金資金運轉上ニ貢獻スル效果ハ益増進シテ底止スル處ヲ知ラサルベシ